

明石市家庭バレーボール審判講習会 資料

期日：令和7年9月13日(土) 13:00～

会場：明石中央体育会館 第2競技場

主催：明石市家庭バレーボール連盟

～ スケジュール ～

12:30～	受	付
13:00	開	会

- ・主審、副審について
- ・試合開始からの手順について
- ・実技講習
- ・質疑応答

閉 会



- ① 判定の一貫性…（両チームに対して）
- ② 審判員が目立たない…あくまでゲームをスムーズに進行させる補助者
- ③ 疑わしきは罰せず…反則の摘発者ではなくゲームの流れをコントロールする役目
- ④ 毅然と判定を！…不遜でなく（思い上がった態度、高慢な態度でなく）
- ⑤ ルールブックをよく読む
- ⑥ トラブルが起きた時
 - ※ 主・副審で決定すること（本部や審判長に裁定を求めない）
 - ※ 試合後に報告 → コート責任者 → 本部
- ⑦ 審判員も試合をしているという意識をもって臨む

◎選手は明石市家庭バレーボール規則第4条（競技者の権利及び義務）ならびに第5条第1項（競技者の服装）を厳守すること

明石市家庭バレーボール規則第4条（競技者の権利及び義務）

- 1 すべての競技者は、競技規則を知り、これを守らなければならない。
- 2 競技停止中、競技者はチームの主将を通じてのみ、主審又は副審に対して発言することができる。
- 3 競技者、交代競技者及び監督の行為
次の行為は行なわない。
 - (1) 審判の判定に対して執ように話しかけること。
 - (2) 審判の判定に影響を及ぼすような不快な動作や態度を示すこと。
 - (3) 審判に対して好ましくない批判をすること。
 - (4) 相手チームの競技者に対して不快な言動を発すること。
 - (5) 競技中、主審の許可なくコートを離れること。以上のような場合、ささいなものは、警告を発し、くり返す場合又は重大な反則は相手チームに1点を与える。個人的反則をくり返す違反者は失格させることができる。

競技規則 3 ページより抜粋

ルールを守り競技するのは当然ですが、勝敗にこだわりすぎて、ルールの盲点についてルール違反すれすれの競技をすることは好ましいことではありません。また、判定は審判員を信頼し、判定は一任しなければなりません。誠意をもって行っている審判員も私たちの仲間なのです。

競技規則 前書き「発行にあたり」より抜粋

- ① 審判のチームは打合せを必ずする
- ② 両チームの主将を呼んでトスさせ、サーブかコートを選択
（主審立会いの上です。選択は両チームに聞く）
- ③ チーム練習開始（5 分間、副審計時、各チーム 1 試合目のみ）
- ④ 両チーム全員エンドライン整列
（主・副審・線審も整列、オーダー記録者は記録機のところで起立）
- ⑤ オーダー記録者は順番を確認、主審が吹笛
- ⑥ 公式練習開始（合同で 2 分間、副審計時、各チーム 1 試合目のみ）
- ⑦ ネット・審判台など点検（主・副審）
- ⑧ 副審・オーダー記録者がポジションの確認（背番号）
- ⑨ 公式練習終了の吹笛（副審）
- ⑩ 試合開始の吹笛（主審）
 - （ア）サーバーが出てくる
 - （イ）サーブ体勢をとる
 - （ウ）サービス許可のホイッスル

※主審と副審の任務（分担）を知る

（例）サーブ時	主審・・・サービングチーム 副審・・・レシーブ側のアウトオブポジションを見る
タッチネットの時	主審・・・ネット上端部 副審・・・ネット下端部

主 審

- ① 審判の位置はその目がネット上 50～70cm くらいにあるのが適当である
ネットプレーの時は、視線をネットの白帯まで下げる
- ② ボールがデッドになった時点で吹笛 → 判定のシグナル → ポイントのシグナル → スコアの確認 → オーダー記録者（次のサーバーと相手の B R の番号の確認） → レシーブ側の確認 → サーブ開始の笛（フットフォルトは無いか気をつけて見る）
落ち着いてはっきりと 吹笛を明確に
- ③ ボールがデッドの時はタイムアウトかそうでないか、わからない状態にしておかない
- ④ ライン際のボールは必ず線審を見るように心がける
- ⑤ 副審から送られるサインに気をつける
- ⑥ サービングオーダーの誤りについて、その処置が決定したら両主将に説明する
- ⑦ どちらかのチームが 14 点になったら、サーブ権がどちらにあるか気をつけておく
- ⑧ セット間に次のサーバーと相手チームの B R の番号を副審と照合
- ⑨ 試合終了後、記入した結果表を速やかに本部に提出する

※ B R = バックライト（後衛の右、サーバー位置）

副 審

- ① 副審の心得
 - ・ 笛と時計を忘れない（笛は2種類、時計は秒針付きのものがよい）
 - ・ インプレーの間、笛は常にくわえておく
 - ・ タイムアウト・メンバーチェンジの吹笛は主審の吹笛に気をつけて、タイミングよく吹く
 - ・ ドリブル・ホールディング・オーバータイム等は小さくサインを送る
 - ・ 主審と一緒にボールを追わないこと
- ② 副審の吹笛できるプレー
 - ・ ネットタッチ ・ オーバーネット ・ パッシングセンターライン
 - ・ 制限プレー（バックアタック、中後衛のブロック参加）
 - ・ メンバーチェンジ ・ タイムアウトの要求 ・ タイムアップ
 - ・ アウトオブポジション ・ サーバーのチェック ・ マーカー外通過
- ③ 2分間の公式練習が終わるとサーブ権のある方のコートに一步入り手を上げて吹笛する
- ④ タイムアウト（30秒以内）
 - タイムを取ったチーム側に一步入りシグナルをして主審に知らせる
- ⑤ タイムアップ
 - タイムを取ったチームが30秒以内で解散した場合は、その時点で吹笛
- ⑥ ボールのキープ
 - 試合開始前・試合終了時 タイムアウト セット間 3セット目8点でのチェンジコート時
- ⑦ 主審の判定に異議のあるときはボールがデッドになった時に、吹笛のうえタイムをかけて意見を述べる
- ⑧ セット終了時のサービスチームに気をつける（セット終了後、オーダー記録者に次のサーバー、相手チームのBRの番号を確認し、主審に伝える）
- ⑨ 吹笛を明確に
- ⑩ 主審とのアイコンタクトをとる
- ⑪ 試合終了後、コート脇ボードの試合表に試合の結果を記入する

線 審

- ① だらけた姿勢にならない
- ② ボール拾いはしない
- ③ アウト・セーフのシグナルは、主審が見るまでハッキリと上げる
（1m内外に落ちたボールはジャッジする）
- ④ ワンタッチの合図
- ⑤ フットフォールト、アンテナ外の通過を確認した時はすぐに旗を振る
- ⑥ 主審が気づかなかった時はボールがデッドになってから伝える
- ⑦ イン、アウトはボールの接点がラインにかかっているかないかで判断する

オーダー記録者

- ① 得点が入りサーブ権が移動する時、サーブをする直前にサーブをする人の枠に斜線を記入する
- ② アウトオブポジションやサーブ順の間違いが発覚した時は、速やかにベルを鳴らす
- ③ サーブ順を聞かれた場合伝えてもよい（キャプテン以外でも可）
間違えていた時に聞かれない場合は伝えなくてよい

得点者

- ① ポイントのシグナルが出てから、主審が確認できるようにめくる
- ② セットを取ったチームのネームプレートの下に赤いマグネット棒を貼る
- ③ 副審や記録からも得点が見える位置に立つ
- ④ セットが終了した時、結果の記入を確認してから戻す
- ⑤ 1 点から 9 点の時、十の位は無地にする

Memo

[illegible]